

「グローバルCOEプログラム」研究拠点形成事業  
本学にニュージーランド研究者3名が来訪

教授 中山 勉  
グローバルCOEプログラム  
事務局スタッフ

ニュージーランド（NZ）では、機能性食品分野の研究が盛んであり、日本との共同研究を希望しています。最近、文部科学省からこの分野に関連する研究機関、大学等に、日本・NZ協力「機能性食品に関するセミナー開催のための準備会合」（昨年9月18日開催、於外務省）への参加要請があり、本学から生活健康科学研究科の中山勉教授が出席しました。

このことに関連して、このたび、機能性食品分野における共同研究の相手先と組織的協力体制の可能性（研究テーマ、内容、施設設備等）について意見交換するため、代表的な研究者3名とコーディネーター1名が来日されました。

本学には、去る7月2日ニュージーランド大使館一等書記官と共に来訪し、西垣克学長と面談後、午前は、はばたき棟3階第3会議室において、ニュージーランド研究者3名によるセミナーが行われました。

Julian Heyes 博士 (Science Group Manager, Fresh Whole Foods, Crop & Food Research) は、「ニュージーランドの機能性食品（野菜と穀物）」について、Margot Skinner 博士 (Science Leader, Functional Foods & Health, Hort Research) は、「ニュージーランドの機能性食品（果物）」について、Paul Moughan 博士 (Director, Riddet Institute, Massey University,) は、「ニュージーランドの機能性食品（今後の展開）」について講演されました。

「グローバルCOEプログラム」事業推進担当者、教員、大学院学生（前期博士課程、後期博士課程）など合わせて41名が参加しました。

引き続き、薬学研究科の各研究室を視察しました。



セミナー会場

午後は、はばたき棟3階第4会議室において、本学の「グローバルCOEプログラム」事業推進担当者4名によるセミナーが行われました。

大島寛史教授（生活健康科学研究科・食品栄養科学専攻）は、「ヒト評価系のためのバイオマーカー探索と機能性食品成分の安全性評価法の確立」について、合田敏尚教授（生活健康科学研究科・食品栄養科学専攻）は、「疾病境界域の代謝・健康状態を予測するバイオマーカーとその個別化栄養／服薬への応用」について、山田静雄教授（薬学研究科・医療薬学専攻）は、「医薬品と機能性食品の相互作用の解明と薬食データベースの構築」について、今井康之教授（薬学研究科・薬学専攻）は、「機能性食品の開発と食品未利用資源の有効利用」について講演しました。

また、ニュージーランド研究者は、生活健康科学研究科の各研究室を視察しました。



セミナー会場

終了後、市内のホテルで夕食会を開催しました。ニュージーランド研究者3名、コーディネーター、書記官、拠点リーダーの木苗直秀教授をはじめ教員14名が出席し、懇談のなかで情報交換もあり、今後、活発な交流が期待できる会になりました。

#### 【ニュージーランド研究者の感想】

“研究者の層が厚く、様々な研究をしているので、今後も積極的に交流を続けていきたい”とのことでした。

帰国後、コーディネーターから、お礼のメールをいただきました。そこにはいずれのニュージーランドの研究者も、本学の訪問が訪日プログラムのハイライトであったとコメントしており、本学と数多くの分野で研究協力の可能性があることから、今後のコミュニケーション及び協力関係に関する覚書の取り交しについて、これを機会に是非ご検討いただきたい旨の依頼がありました。